

## 特集

# 第3回 現代龍馬学会

### 3年目の意義と課題 龍馬記念館の“縁の下の力持ち”目指して

## 節目の年体制固め発展誓う

「第3回高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会」(永国淳哉会長139人総会・研究発表会が28日、龍馬記念館の隣、国民宿舎「桂浜荘」で開かれた。学会はスタートしてから3年目、また、龍馬記念館は開館20周年という節目の年。しかも3月には東日本大震災である。色々な意味で重要な一日となった。新会長の誕生、理事の増員、研究発表は分野の違う8人が熱く語って盛り上げ、今後の発展を誓い合った。

東日本大震災は人間の持つ価値観を一変させたと言っても過言ではない。会にもその緊張感が満ちていた。総会は午前9時開始。震災被害者への黙祷の後、議事審理に移った。3年目に入った龍馬学会は新年、紀要2号の発行、学会員6人による自発的パネル展など徐々に活動の足場が固まってきた。これから次のステップ段階に入る。そこで、更なる体制固めを図った。より多くの意見集約のために、理事を8人から15人に、また、1年に1回の大会、機関紙「飛騰」内の編集、例会、ホームページなど委員会を置いた。さらに、永国淳哉会長を顧問に新会長に片岡雅文氏を選んだ。



引き続き、恒例の研究発表会に移った。午前中3人、午後5人がそれぞれ40分の持ち時間で発表を行なった。坂本家、勝家の子孫、学者、学芸員、カルチャーサポーターなど立場、年齢も異なる皆さんの発表に72人の参加者が熱心に耳を傾けた。この発表を元に来年紀要3が発行される。午後5時、宣言文を作成、発表して閉会した。夜はリラククスしての懇親会で親交を深めた。

### 23年度現代龍馬学会役員決定

「龍馬記念館と連携しながら、「龍馬とその時代」「現代における龍馬」「龍馬を支え、助けた人々」などについて、少しでも研究を発展させ、龍馬の思想的な部分と、史実の検証や研究のバランスを図っていきたい」と新会長に就任した片岡雅文さん。

23年度からの現代龍馬学会は「龍馬精神の啓蒙」とともに、「歴史研究・調査」にも比重を置いた活動が期待できそうです。 ※総会において新年度の役員は以下のように決定しました(敬称略)

#### ●顧問

- 永国 淳哉 (歴史研究者)
- 坂本 登 (坂本家9代目当主)

#### ●新会長

- 片岡 雅文 (高知新聞編集委員)

#### ●副会長

- 渋谷 雅之 (徳島大学名誉教授)
- 坂本 世津夫 (総務省委託 地域情報化アドバイザー)

#### ●理事

- 森健 志郎 (坂本龍馬記念館館長)
- 宅間 一之 (歴史民族資料館館長)
- 渡辺 瑠海 (エッセイスト 坂本龍馬記念館)
- 三浦 夏樹 (坂本龍馬記念館主任学芸員)
- 前田 由紀枝 (坂本龍馬記念館学芸主任)

#### ●以下新任理事

- 新本 勝庸 (フリーブル出版代表取締役)
- 小島 一男 (土佐歴史資料研究会)
- 川崎 弘佳 (高知市立昭和小学校教頭)

竹内 土佐郎 (安田町文化財保護審議委員会)

宮 英司 (高知大学非常勤講師)

宮尻 千恵子 (龍馬研究会理事)

亀尾 美香 (坂本龍馬記念館学芸員)

#### ●監査

- 大崎 隆徳 (桂浜郵便局長)
- 江上 英治 (京楽め呉服はなぶさ)

#### ●事務局

- 手島 ゆか (坂本龍馬記念館)
- 西本 有里 (坂本龍馬記念館)
- 佐々木 恵 (坂本龍馬記念館)
- 渡辺 瑠海 (坂本龍馬記念館)

#### ① 大会運営委員会

- 委員長 坂本世津夫
- 副委員長 新本勝庸

#### ② 編集委員会

- 委員長 宮英司
- 副委員長 新本勝庸

#### ③ ホームページ委員会

- 委員長 渡辺瑠海
- 副委員長 (編集委員会と連携)

#### ④ 例会委員会

- 委員長 永国淳哉
- 副委員長 江上英治

パワーアップした現代龍馬学会を、何とぞよろしく願っています。



新会長 片岡 雅文氏



想いが歴史にかわる時

京都国立博物館 宮川 禎一

歴史とは何か?その答えは難しい。しかし、歴史研究の対象となるのはどれくらい前の過去なのか?これなら何とか答えが出てきそう。

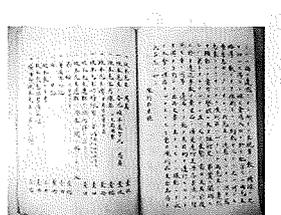
坂本龍馬を追悼した大規模な祭典の代表は明治三十九年に京都霊山墓地で開催された「坂本中岡両士四十年祭」である。土佐勤王党員であった小畑美穂らが世話役をしていた。墓前で祭文を読んだのは薩摩の大山巖であった。日露戦争の凱旋將軍として知名度抜群であったはずだ。彼は大山弥助と名乗っていた幕末、龍馬にも会ったことがある。とくに実兄の大山彦八が伏見の薩摩屋敷にいて、寺田屋で傷ついた龍馬を救出したことが深い縁である。祭文には「想ふに大政維新の基する所、二君が長藩緒老と我薩藩諸先輩との間に周旋力を尽し」とあり、「二君四十年の祭事に、当時勇壯活発の風采、今日前に在るが如し。一言追慕の意を表す」と締めくくられている。

この祭典の資料を読む機会があったが、わずかに十年でその参加者は大きく様変わりしている。まず、井口家は新助が亡くなり、息子新之助が代表である。坂本家は直寛の養子坂本弥太郎が代表者となっている。その顔ぶれを見渡すと、龍馬に会ったことのある人が激減している。

この四十年祭と五十年祭の間に大きな境界線があるようだ。坂本龍馬を直接知る人々の多くが没し、その子孫の世代が祭典の中心となったのだ。親から聞かされた龍馬であり、記録や小説から知る龍馬である。

明治が大正に代わる頃、想い出の中の坂本龍馬から歴史上の人物である坂本龍馬への変換点があったのである。昭和十四年に田中光頭が亡くなつて、龍馬を直接知る人は絶えたのだ。「この本にはこの書かれておりますけれども、実際の龍馬さんはですな。……などと語る人が居なくなつて、ようやく人は歴史研究の対象となるのである。」

この四十年祭には龍馬を知る関係者が多数参加した。例えば野村靖・南部甕男・谷干城・北垣国道・井口新助などである。坂本家の代表者は坂本とめ(坂本直の妻)であった。



「坂本中岡両先生遭難五十年記念祭典記事」のうち陳列品の目録

コラム・龍馬のこと  
龍馬さん ありがとう

(社)高知市観光協会会長 松尾 徹人

私が初めて高知県に足を踏み入れたのは、県の財政課長として自治省から赴任した昭和56年11月15日。電車通り沿道に龍馬生誕祭の海援隊旗が飾られているのが印象的でした。「ああ、龍馬のふるさどで働けるんだ」と緊張感の中で胸躍らせていたのを思い出します。そして、いろいろなことがあって、龍馬を育てた乙女姉やのようなハチキン女性のパワーに引っぱられて高知市長に初当選し初登庁したのが平成6年11月15日、初仕事が桂浜の「龍馬祭り」でのご挨拶。龍馬像の前に立ち、銅像を見上げると「おまんは、どうもワシの申し子ぜよ。龍馬市長になりぎって思い切り高知を洗濯しとうせ。助けちゃうき。」と言われたような気がしたのです。それからというもの、なにかにつけ龍馬にこだわり、イベントにはかつら、ブーツを身につけ龍馬姿をトレードマークとする「龍馬市長」として、とうとう高知市総合計画も「龍馬のこころを体する龍馬都市」がメインテーマになりました。いっそ「高知市」を「龍馬市」に改称したかったのですが、さすがにそこまでコンセンサスを得るには時間が足りませんでした。十年前NHKの本局に龍馬ゆかりの地の市長、教育長引き連れて龍馬姿で押しかけたことが、昨年の「龍馬伝」実現につながったであろうことに感慨を覚えます。

そんな私も昨年、末期ガンを宣告され、厳しい闘病生活を余儀なくされていますが、刺客に付け狙われる龍馬の心境を慮りつつ、冷静に我が無き後のことにも考えを巡らしつつ、夢と希望を捨てることなく自分との戦いに自らを奮い立たせています。

「君が為 捨つる命は惜しまねど 心にかかる国の行く末」  
振り返れば、家族を始め人生で出会った多くの人々に教えられ、支えられ、助けられ、そして龍馬に導かれて乗り切ってきたわが人生。今はただ喜びと感謝の穏やかな気持ちです。龍馬も「おまん、ようがんばったぜよ。待ちゆうき。まあゆっくり来いや。」と言うてくれようろうか。

「龍馬さん ありがとう」

“話してみるかよ”

「集い来る 道 潔よき 霜夜かな 龍馬」

現代龍馬学会顧問 永国 淳哉

これは坂崎紫瀾著「汗血千里駒」に出てくる「龍馬辞世句」である。たぶん坂崎紫瀾の創作だろう。命を惜しむ「潔よき」ものが、土佐勤王党に血判して今夏で150年になる。「維新土佐勤王党史」では吉村虎太郎や吉田東洋暗殺の三人それに池内蔵太、上岡膽治も入れて、総数198人。さらに清岡道之助、樋口真吉、岡田以蔵、近藤長次郎など「同志人名簿」は112人いる。

先日現代龍馬学会で、龍馬記念館の三浦夏樹学芸主任が「勤王党関係」の研究発表。そのモチーフとして昭和38年(1963)3月の駐日アメリカ大使ライシャワー博士の高知訪問をとりあげ、同博士が質問した「幕末における土佐の下士・庄屋層の自己犠牲の異常性を追求した。土佐勤王党の計310人のうち「殉難者」は83名と、まさに「異常」である。

文久3年(1863)6月切腹した掛橋和泉から始まり間崎哲馬、平井収二郎と続き、野根山屯集なかに16才の木下慎之介もいた。

「飛びこんで ぬれてもみたし 萩の露 上岡胆治」

この句は、「土佐の俳句」(里見義裕、橋田憲明共著)によると「文久3年、同志千屋菊次郎、松山深蔵の脱藩に際して贈ったもの。折から、庭の萩の花がさかりであった。彼は、はやる心を「ぬれてもみたし」と詠んだが、数日後、

彼もまた同志の後を追って脱藩」そして、切腹、43歳。決して、年寄りではなかった。

高知駅前「三志士像」を置き、土佐勤王党再結党をするという。しかし「おだちゆう」党員はいらん。地震被災者のための「金納党」や、真剣に生態系に取り組む「勤農党」の人間がほしい。

